

日本福音ルーテル教会 女性会連盟 第 23 期 155 号

会報



総主題「共にいてくださる主を信じて」
副主題 信仰と、希望と、愛

2017. 10. 15

発行 日本福音ルーテル
教会女性会連盟
〒169-0072 東京都新宿区
大久保 1-14-14
発行者 芳賀 美江
編集者 柳井 悦子
印刷 平山印刷出版

主題聖句

「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」

コリントの信徒への手紙一 13 章 13 節

あなたへ



主とともに進む

栄光教会牧師 内藤 文子

私は 20 代の初め、市川房江さん（当時、国会議員）の生き方に教えられ、ご著書をいくつか読んだ。愛知県に生まれ、学校の先生、新聞記者を経て、平塚らいてうさん、久布白落実さん（キリスト教婦人矯風会）らと「婦人参政権運動」を初めておられる。その時代は、女性に選挙権がなかった時代であり、それは、もうすでに天に召された私の祖母の時代と重なる。女性が法律的にも全く差別されていた、明治・大正における「女性の解放」の願いのたまたかいの中心にいた女性が市川房江さんだった。

その原点には、市川さんが幼いころ、「暴君であった父から、げんこつや棒切れでなぐられながら、じつと我慢していた母の姿」。母の女としての悲しみが心に残ったと言う。

そして、女性に参政権が認められあ

たりまえのように暮らしている 72 年後の私。市川さんの「女よ、権利の上に眠るな」と言う呼びかけが聞こえてくる。

神様と連盟に励まされ、牧師となつて歩んできた私の 26 年。召されて牧師になるまでの年月も、牧師になってからの年月にも、多くの取り組みがあった。夫婦教職として認められるまで、子どもを産んで育てながらの牧会、育児のための数年のつもりでの休職、なかなかかなわなかった復職、そして単身赴任としての務めを続ける。しかし、その毎日は、主への祈りに始まり、変わらない聖書の言葉の力強さに支えられ、主があたたかく導いてくれる。これからも、福音の上に眠ることなく歩んでいきたい。そして女性としての性を与えられているゆえ、女性として共感しあえる特性を生かしてゆきたい。